

# 1 自己評価 (のぞみユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	千葉県四街道市物井字金鑄塚1596-4		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働福祉センター5階
訪問調査日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の要望を取り入れた外食や外出、その他大きな行事を毎月実施している。入居者の思いや願いを大切に、気持ちに寄り添う支援をすることで、可能な限り一人ひとりの自己実現の達成を目指している。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価 (のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より、会社として理念の他、「安全で楽しく家庭的」という当グループホームだけの独自スローガンを掲げています。スローガンは、実現するために、ミーティングで話し合っています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のお祭りにお誘い頂いたり、近隣の小学校から発表会などの招待状が届いたり、交流をしています。事業所も社会科見学や、課外授業などを受け入れ、協力しています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや、見学は積極的に受け入れています。認知症のケアに関する相談にも対応しています。また、地域へそよ風を知って頂く為に、民生員の定例会議に参加しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、意見交換、質疑応答などを行いサービスに反映できるようにしています。必ずテーマを持ち、要点を絞って会議を行っています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所への提出物等を直接届けに行き話をしたり、各市町村への挨拶や、各事業所等の研修会に参加しています。運営推進会議にも担当者に参加いただき、意見を頂いています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、会議等で正しい理解ができるよう学び、ケアに取り組んでいます。階段の施錠に関しては、家族に説明、納得を頂いているのですが、施錠をしない取り組みについて職員間で話し合いをしています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束廃止研修を受講しており、高齢者虐待防止関連法や身体拘束についてGH会議や全体会議などで取り上げ、学んでいます。身体拘束廃止委員会の設置、また、マニュアルも作成しています。		

【第三者評価】

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいるので、GH会議や全体会議などで取り上げ、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての理解を深めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、全て読み上げ、説明をしてから同意を得ています。また、本人や家族からの質問には納得していただけるまで詳しく説明をしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議などで、家族や入居者の意見等を吸い上げています。また、契約書に苦情意見窓口として行政機関の連絡先の記載もしており、家族に伝えています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議などで、職員の意見や提案を聞いています。個別に聞くこともあります。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、ベースアップや職員個々の悩みや課題を把握し、解決に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には一定期間、管理者・リーダーまたは経験豊富な職員がつき、指導育成しています。勉強会も開いており、テーマは会議等で話し合っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流があり、訪問したり情報交換をしています。また、同法人の近隣センターとも交流を図り、合同の勉強会を月に1度行っています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず計画作成担当者が入居者本人の状況を知るよう心がけています。入居までに1度はホームに来ていただいたり、ご自宅へ訪ねる等し、本人とよく話をし聞き取るようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに来られた際や自宅へ訪ねた時には、本人同様に家族の希望や困っていることをよく聞き取るようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方なども伝えるようにしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で職員と入居者の枠にとらわれない心の交流を大切にしています。野菜の切り方や味付けなどの調理の仕方、雑巾の縫い方等、教えて頂いたり、昔の話などを通して、学んだり支えあったりしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族会を設け、交流を促しています。また、行事や外出の際にはお知らせし、一緒に参加していただいたり足を運んで頂く機会を増やしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から特に禁止がない場合、訪問者は歓迎しています。本人が訪問者を思い出せない時には同席するなどし、支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話にはさりげなく交わりを持ち、他の入居者が孤立しないように配慮しています。また、レクリエーションや行事、日常の生活を通して信頼関係を築けるように努めています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や医療系介護施設に転居された入居者や家族とも関わりを持っています。お見舞いへ行ったり、家族からの報告があるなど、良いお付き合いをしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での関わり合いから、また、個別に話しをするなどし、入居者それぞれの意向・希望の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、それまでの生活歴や、家族にも相談し検討しています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族からの聞き取りや、入居後も本人・家族とよく話し、普段の会話などからも把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行動なども申し送り、ささいな変化もとらえるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメント・職員の意見交換・担当者会議を通し、介護計画に反映できるようにしています。そして、毎月モニタリング、評価をしています。窓口を一本化しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、いつもと違った言動・行動などを個別ケース記録に記録、ファイリングし、いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージを利用しているが、希望によって外の床屋へ行ったり、併設のデイサービスと連携して一緒に行事を行ったりと柔軟な支援をしています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校からの児童の訪問や行事招待、自治会主催の地域のお祭りへの参加など、協力しながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人はもちろん家族とも連携を取り、協力病院とも良い関係を維持しています。希望の病院がある場合はそちらを優先しています。適切な医療をうけられるように支援しています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター内看護師と日常での健康管理や医療的な相談をしたり、訪問診療が定期的に入っている為、こまめに相談、報告ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際に意思や看護師などと情報交換や相談をして連携をはかっています。早期退院を目指した医師からの説明の際には、なるべく家族に同席していただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や協力病院との面談や話し合いを十分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出し、頻繁な連絡と相談のうえ、一番良いと思われる支援をしています。事例もあります。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の際は、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。また、救命救急講習も職員順番に受講しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いのもと、避難訓練が行われており、全入居者参加しています。近隣住民に避難訓練のお知らせをしていますが、合同訓練には至っていません。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、本人の尊厳を損なう情報は会話にしないなどの配慮をしています。記録等は個人情報保護法にのっとり取り扱っています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事やしたい事など、自分の好きなことを行えるような働きかけをしています。また、安全を確保した上で行動の自由を制限しない言葉かけをするなど、のびのびと過ごし自己決定できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合に無理やり合わせるのではなく、一人ひとりの生活リズムを大切に、できるだけその人の思いや状態に配慮し、支援することを心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えなど、意向や相談に乗りながら決めています。毎月1回訪問理美容を利用したり、希望があれば近隣の美容室や床屋にも付き添っています。一人ひとりの希望のおしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、配膳・下膳・調理などにかかわって頂いています。誕生日などには本人の食べたいもの、好きなものを用意するなど、希望も出来るだけ取り入れるようにしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に毎日の食事は栄養士によるバランスの取れた献立をもとに提供しています。食事、水分チェック表により一人ひとりの状態を把握し支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きなどを行っています。本人にまかせるだけでなく、声かけや介助を行い清潔を保持しています。また、必要に応じて訪問歯科に来て頂いています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握、習慣に合わせて、また、意思表示を見逃さぬようにしながら、声かけや誘導をしています。声かけや交換の際にも自尊心を傷つけないよう排泄の支援をしています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、コントロールが必要な場合は医師の指示のもと行っています。また、体操や散歩、朝牛乳を飲んでいただくなど、自然排便を促しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており、入浴の希望を伺い安心して気持ちよく入浴ができるような声かけや対応の工夫をしています。1階の大浴場は準天然温泉で、入居者も利用して温泉気分を味わって頂くこともあります。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めていないので、状況に応じその人の生活習慣を尊重したペースで休んで頂いています。散歩や体操などで一人ひとりの生活のリズムを作り、安眠策をとっています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に入居者の薬の意味を把握し、増減や変更についても把握しています。内服によって変化等あった場合は、家族、医療機関に相談しています。薬剤師ともすぐ相談できるような体制が取れています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なものを理解し、生活の中で出来ることを見出し、実現できるように、また、身体状況に合わせ、嗜好を楽しめるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブやイベントなど、外出の機会を毎月計画しています。外出の希望があれば、職員が同行するようにしています。直ぐに出来ない時には説明し、納得していただくようにしています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金はお預かりしていますが、買い物の際には本人に支払ってもらうなど、状況に応じて支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどは毎年書いていただいています。希望があれば、普段もご家族様への手紙を出すお手伝いもしています。電話は家族の意向を伺って行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明を弱めたり、カーテンで調節しています。テレビ等は音量をほぼ一定に保っています。職員は声のトーンに注意し、ゆっくりとお話するようにしています。毎月のカレンダーや装飾など、入居者と一緒に考え製作しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各居室を気軽に行き来しています。また、エレベーター前などにソファーやイスを置くことで、入居者が思い思いの場所で過ごせるような工夫をしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、使い慣れたものを用意していただいています。家具等も入居者が使っていたものをお持ちいただいています。新しく購入するものは、可能な限り本人と一緒に行き選んでもらうようにしています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手すりや、キッチンなど低めに設計されており、入居者が使いやすいようになっているなど、安全と自立に配慮しています。また、居室は同じ造りのため表札を分かりやすくするなど工夫しています。		

【第三者評価】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所